



平成24年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年7月30日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社アウトソーシング

コード番号 2427 URL <http://www.outsourcing.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 土井 春彦

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理本部長 (氏名) 植松 政臣

四半期報告書提出予定日 平成24年8月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有

TEL 03-3286-4888

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年12月期第2四半期の連結業績(平成24年1月1日～平成24年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 四半期純利益 | |
|--------------|--------|------|------|-------|------|-------|--------|-------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 24年12月期第2四半期 | 20,408 | 37.2 | 249 | 20.1 | 309 | 10.0 | △23 | — |
| 23年12月期第2四半期 | 14,874 | 15.8 | 208 | △19.0 | 280 | △26.0 | 10 | △93.5 |

(注) 包括利益 24年12月期第2四半期 △6百万円 (—%) 23年12月期第2四半期 11百万円 (—%)

| | 1株当たり四半期純利益 | 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益 |
|--------------|-------------|--------------------|
| | 円銭 | 円銭 |
| 24年12月期第2四半期 | △1.63 | — |
| 23年12月期第2四半期 | 0.73 | 0.73 |

(注) 24年12月期第2四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益につきましては、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | | 純資産 | | 自己資本比率 | |
|--------------|--------|---|-------|---|--------|---|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 24年12月期第2四半期 | 13,527 | | 3,582 | | 24.8 | |
| 23年12月期 | 11,921 | | 3,670 | | 28.9 | |

(参考) 自己資本 24年12月期第2四半期 3,356百万円 23年12月期 3,440百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | | 合計 |
|-------------|--------|--------|--------|------|------|------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 円銭 | |
| 23年12月期 | — | 0.00 | — | 8.00 | 8.00 | 8.00 |
| 24年12月期 | — | 0.00 | — | 8.00 | 8.00 | 8.00 |
| 24年12月期(予想) | — | — | — | 8.00 | 8.00 | 8.00 |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年12月期の連結業績予想(平成24年1月1日～平成24年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 当期純利益 | | 1株当たり当期純利益 |
|----|--------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円銭 |
| 通期 | 46,470 | 43.4 | 1,660 | 194.8 | 1,750 | 149.3 | 875 | 351.0 | 60.63 |

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規 1社 (社名) アスカ・クリエイション株式会社 、 除外 1社 (社名) 株式会社エスティエス
(詳細は、添付資料P. 4「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項」をご覧ください。)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第10条の5に該当するものであります。詳細は、添付資料P4「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項」をご覧ください。)

(4) 発行済株式数(普通株式)

| | | | | |
|---------------------|-----------|--------------|-----------|--------------|
| ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) | 24年12月期2Q | 15,569,800 株 | 23年12月期 | 15,569,800 株 |
| ② 期末自己株式数 | 24年12月期2Q | 1,139,500 株 | 23年12月期 | 1,139,500 株 |
| ③ 期中平均株式数(四半期累計) | 24年12月期2Q | 14,430,300 株 | 23年12月期2Q | 14,422,417 株 |

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------|----|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 連結経営成績に関する定性的情報 | 2 |
| (2) 連結財政状態に関する定性的情報 | 3 |
| (3) 連結業績予想に関する定性的情報 | 3 |
| 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 | 4 |
| (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 | 4 |
| (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 | 4 |
| (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 | 4 |
| 3. 四半期連結財務諸表 | 5 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 5 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 7 |
| 四半期連結損益計算書 | |
| 第2四半期連結累計期間 | 7 |
| 四半期連結包括利益計算書 | |
| 第2四半期連結累計期間 | 8 |
| (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 | 9 |
| (4) 継続企業の前提に関する注記 | 11 |
| (5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 | 11 |
| (6) セグメント情報等 | 11 |
| 4. 補足情報 | 13 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間における事業環境は、ヨーロッパ経済危機の懸念は残るものの、グローバル市場において、黒物を中心とした家電や輸送機器・半導体など主要な工業製品の販売が順調な伸びを示しました。国内メーカーにおいては、新興国を中心としたメーカー間におけるグローバル競争の結果、輸送機器、医療機器などの勝ち組業種、半導体、家電などの負け組業種の明暗が明確にわかれてきましたが、勝ち組メーカーの需要拡大が補い、設備投資や雇用情勢は堅調に推移しました。一方、当社グループ事業領域の生産アウトソーシング業界におきましては、昨年発生した大震災やタイの洪水などの大きな自然災害で二度に亘り生産がリセットされたことや、マクロ環境により顧客メーカーニーズが高度化及び多様化したことなどにより、これまで当業界市場のマジョリティを占めていた古参業者が大きくシェアを崩し、当社グループを含む新参業者を交えた数社が横一線に並んだ事業規模となってトップグループを形勢している状況であります。

このような事業環境の中、当社グループにおきましては、今後ますます高度・多様化するメーカーニーズに速やかに応えられる業者が、横一線から抜け出すことができ、淘汰を勝ち抜けるという観点から、利益よりもむしろポジション取りを優先した戦略を進めてまいりました。その戦略の一環として、本社を静岡から東京に移転し、上場市場を大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)から東京証券取引所に市場替えたのと同時に、2012年問題に対するソリューションやメーカー海外移管ニーズに応えるための経営資源獲得も積極的に行い、今後メーカーが国内外で必要になるサービスを先駆けて創出し提供してまいりました。

この優位性を確保した事業展開により、売上高におきましては、上半期における過去最高額を更新し、生産アウトソーシング業者の付加価値を反映する売上総利益につきましても、業界トップクラスの高い水準を維持いたしました。グループ会社の再編に伴う約1億円の税効果が減少したことにより四半期純損失となりました。

以上の結果、当第2四半期連結会計期間の連結売上高は20,408,116千円(前年同期比37.2%増)、営業利益は249,903千円(前年同期比20.1%増)、経常利益309,206千円(前年同期比10.0%増)、四半期純損失23,607千円(前年同期は10,621千円の四半期純利益)となりました。

(生産アウトソーシング事業)

生産アウトソーシング事業につきましては、当社グループの主力事業であり、主要顧客である国内メーカーの生産動向が勝ち組業種、負け組業種と明確化する中、昨年来より強気な生産計画を立てていた輸送機器において、エコカー補助金の復活が更なる追い風となり、同業種は、すそ野が広いこともあり、国内外の生産市場を牽引し、その結果、全体的には堅調感を持ったままの推移となりました。

当社グループにおきましても、国内事業につきましては、業種別で輸送機器(売上高6,230,625千円・前年同期比34.9%増)とそれに関連する部品関係が業績を牽引し、また住器建材を中心とした金属関連(売上高1,917,472千円・前年同期比928.9%増)も好調に推移した結果、全体では売上高17,775,502千円(前年同期比23.6%増)という高い伸びに繋がりました。

海外事業につきましては、国内メーカーは新興国でのシェア獲得に向け、生産管理体制のグローバル化を急速に進めており、業者に対しても人材サービスのグローバル対応を要求していることから、当社グループでは、昨年11月にアジア6カ国でライセンスを保有し、ホワイトカラー系の人材サービスを中心に営む株式会社OSインターナショナルを子会社化し、ライセンスをブルーカラー系に転用することにより、国内業者で唯一、ホワイトカラー系からブルーカラー系までの、グローバル一括受託体制を構築しました。これにより、多くの海外シェアを獲得することができ、前年同期比を大きく伸ばすことができました。

以上の結果、売上高は19,768,313千円、営業利益は170,086千円となりました。

(管理業務アウトソーシング事業)

管理業務アウトソーシング事業につきましては、連結子会社である株式会社ORJを中心に、期間社員を活用するメーカーに対し、採用代行業から採用後の労務管理や社宅管理等といった管理業務受託事業、更に期間満了者の再就職支援事業までを行う、独自の管理業務一括受託サービスを提供しております。

当上半期においては、タイ洪水における国内での代替生産特需は終息し、主要取引先業種である輸送機器業界を中心とした大手メーカー各社の欧州向けの自動車輸出減等の影響を受けて、採用代行業の受注数は減ったものの、当社グループの経営資源である営業体制を活用したソリューション活動により、新たなメーカーとの口座数を増加させることが出来ました。

また、メーカーが3年を超えて製造派遣を継続活用できなくなる、抵触日問題が大きく顕在化しました。この対応策としてメーカーは、従来の単純派遣からの脱却を図るため、製造派遣活用による生産現場の直接雇用による期間社員への切替、または業者集約による請負化のどちらかを選択することが予想されます。当社グループは、従来から受注現場の多くを請負化して生産効率を向上させた実績を持ち、顧客メーカーからも、真に高度な請負化を行う業者として認知されております。また、メーカーによる期間社員活用への切替に対しても、株式会社ORJによ

る管理業務受託事業を中心とした独自の一括受託サービス提供により、優位性を持った受注獲得が可能になっております。更に、株式会社ORJが、メーカー期間社員の管理業務を受託する生産現場を、当社グループの生産効率の向上を目的に集約による請負化を提案する事で、同業他社の派遣社員を当社請負現場に集約いたします。

このように、企業ごとのニーズを的確に捉え、当社の高度な請負化と株式会社ORJを中心とした管理業務受託による当社独自のグループソリューションの提供により、優位性を持ってシェアを拡大することで、業界淘汰を勝ち抜いてまいります。

以上の結果、売上高は560,742千円、営業利益は168,274千円となりました。

(その他の事業)

その他の事業につきましては、連結子会社である株式会社アネブルにおいて、レースを中心とした自動車用高性能部品等の開発製造販売を行っております。

当上半期におきましては、国内大手自動車メーカーの高級ブランドにおけるオプションパーツとして採用されている、同社の開発するショックアブソーバーの受注が拡大したことにより、堅調に推移しました。

以上の結果、売上高は79,060千円、営業利益は4,800千円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は13,527,049千円となり、前連結会計年度末に比べ1,605,239千円の増加となりました。これは主に連結子会社の増加等によるものであります。

負債につきましては、負債合計が9,944,368千円となり、前連結会計年度末に比べ1,693,223千円の増加となりました。これは主に連結子会社の増加及び借入金の増加等によるものであります。

純資産につきましては、純資産合計が3,582,680千円となり、前連結会計年度末に比べ87,983千円の減少となりましたが、これは主に期末配当金の支払いを反映したものであります。

②キャッシュフローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ855,897千円増加し3,021,958千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況及びこれらの要因は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動による資金の増加は561,729千円となりました。主な増加は、税金等調整前四半期純利益210,347千円及び仕入債務の増加、主な減少は、法人税等の支払いによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動による資金の減少は445,023千円となりました。主な減少は、子会社株式の取得による支出及び敷金及び保証金の差入による支出によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動による資金の増加は729,306千円となりました。主な増加は、短期借入金の増加及び長期借入れによる収入、主な減少は、長期借入金の返済による支出及び配当金の支払いによるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成24年12月期通期の業績予想につきましては、平成24年7月23日に公表いたしました平成24年の通期業績予想から変更はございません。

当該、予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、当該予想数値と異なる場合があります。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

第1四半期連結会計期間より、アスカ・クリエイション株式会社の自己株式を除く全株式を取得したため連結の範囲に含めております。また、当第2四半期連結会計期間において、株式会社エスティエスは清算したため、連結の範囲から除外しております。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更）

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当第2四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した減価償却資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これによる当第2四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表
(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (平成23年12月31日) | 当第2四半期連結会計期間 (平成24年6月30日) |
|-------------|--------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 2,264,170 | 3,106,918 |
| 受取手形及び売掛金 | 4,900,556 | 5,090,074 |
| 仕掛品 | 85,800 | 82,377 |
| 原材料及び貯蔵品 | 54,045 | 63,514 |
| その他 | 656,595 | 1,023,051 |
| 貸倒引当金 | △27,360 | △25,867 |
| 流動資産合計 | 7,933,807 | 9,340,068 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物(純額) | 1,152,710 | 1,178,399 |
| その他(純額) | 893,485 | 918,763 |
| 有形固定資産合計 | 2,046,196 | 2,097,163 |
| 無形固定資産 | | |
| のれん | 768,413 | 803,364 |
| その他 | 92,974 | 103,850 |
| 無形固定資産合計 | 861,387 | 907,214 |
| 投資その他の資産 | 1,078,130 | 1,180,620 |
| 固定資産合計 | 3,985,714 | 4,184,997 |
| 繰延資産 | 2,287 | 1,982 |
| 資産合計 | 11,921,809 | 13,527,049 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 49,544 | 77,377 |
| 短期借入金 | 1,759,694 | 2,234,400 |
| 未払金 | 2,338,538 | 3,127,508 |
| 未払法人税等 | 163,594 | 179,891 |
| 賞与引当金 | 81,843 | 39,339 |
| その他 | 1,549,948 | 1,470,519 |
| 流動負債合計 | 5,943,164 | 7,129,036 |
| 固定負債 | | |
| 社債 | 115,250 | 96,000 |
| 長期借入金 | 1,351,861 | 1,874,770 |
| 退職給付引当金 | 417,553 | 380,003 |
| 負ののれん | 317,826 | 255,438 |
| その他 | 105,489 | 209,120 |
| 固定負債合計 | 2,307,980 | 2,815,332 |
| 負債合計 | 8,251,145 | 9,944,368 |

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (平成23年12月31日) | 当第2四半期連結会計期間 (平成24年6月30日) |
|---------------|--------------------------|------------------------------|
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 485,443 | 485,443 |
| 資本剰余金 | 881,614 | 881,614 |
| 利益剰余金 | 2,469,153 | 2,359,073 |
| 自己株式 | △391,094 | △391,094 |
| 株主資本合計 | 3,445,116 | 3,335,037 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | △1,372 | 352 |
| 為替換算調整勘定 | △3,459 | 20,775 |
| その他の包括利益累計額合計 | △4,832 | 21,127 |
| 新株予約権 | 91,996 | 108,709 |
| 少数株主持分 | 138,382 | 117,806 |
| 純資産合計 | 3,670,664 | 3,582,680 |
| 負債純資産合計 | 11,921,809 | 13,527,049 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年6月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日) |
|-------------------------------------|---|---|
| 売上高 | 14,874,595 | 20,408,116 |
| 売上原価 | 11,844,990 | 16,371,052 |
| 売上総利益 | 3,029,605 | 4,037,064 |
| 販売費及び一般管理費 | 2,821,470 | 3,787,160 |
| 営業利益 | 208,134 | 249,903 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 1,902 | 2,945 |
| 受取配当金 | 56 | 2,506 |
| 不動産賃貸料 | 154,127 | 204,045 |
| 負ののれん償却額 | 70,562 | 69,165 |
| 持分法による投資利益 | — | 25,103 |
| その他 | 29,187 | 34,785 |
| 営業外収益合計 | 255,836 | 338,551 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 13,069 | 17,068 |
| 不動産賃貸原価 | 164,496 | 230,275 |
| 持分法による投資損失 | 788 | — |
| その他 | 4,623 | 31,904 |
| 営業外費用合計 | 182,978 | 279,248 |
| 経常利益 | 280,992 | 309,206 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 4,962 | 1,163 |
| 負ののれん発生益 | — | 15,344 |
| 特別利益合計 | 4,962 | 16,507 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除売却損 | 14,833 | 6,184 |
| 関係会社株式売却損 | 10,023 | — |
| 減損損失 | — | 39,221 |
| 災害による損失 | 37,197 | — |
| 事務所移転費用 | — | 69,960 |
| 和解金 | 11,200 | — |
| 資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額 | 5,832 | — |
| 特別損失合計 | 79,086 | 115,366 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 206,868 | 210,347 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 263,761 | 186,852 |
| 法人税等調整額 | △69,578 | 55,119 |
| 法人税等合計 | 194,182 | 241,972 |
| 少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△) | 12,685 | △31,624 |
| 少数株主利益又は少数株主損失(△) | 2,064 | △8,016 |
| 四半期純利益又は四半期純損失(△) | 10,621 | △23,607 |

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年6月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日) |
|---|---|---|
| 少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△) | 12,685 | △31,624 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | △349 | 1,758 |
| 為替換算調整勘定 | △599 | 22,941 |
| その他の包括利益合計 | △949 | 24,700 |
| 四半期包括利益 | 11,736 | △6,924 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 10,313 | 2,351 |
| 少数株主に係る四半期包括利益 | 1,422 | △9,275 |

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年6月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日) |
|--------------------------|---|---|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税金等調整前四半期純利益 | 206,868 | 210,347 |
| 減価償却費 | 116,052 | 145,020 |
| 減損損失 | — | 39,221 |
| 災害損失 | 37,197 | — |
| 和解金 | 11,200 | — |
| 負ののれん発生益 | — | △15,344 |
| のれん償却額 | 80,664 | 118,260 |
| 負ののれん償却額 | △70,562 | △69,165 |
| 貸倒引当金の増減額(△は減少) | △194 | △2,192 |
| 賞与引当金の増減額(△は減少) | 1,081 | △52,812 |
| 退職給付引当金の増減額(△は減少) | △1,206 | △37,334 |
| 受取利息及び受取配当金 | △1,959 | △5,452 |
| 支払利息 | 13,069 | 17,068 |
| 持分法による投資損益(△は益) | 788 | △25,103 |
| 固定資産除売却損益(△は益) | 9,871 | 5,021 |
| 関係会社株式売却損益(△は益) | 10,023 | — |
| 売上債権の増減額(△は増加) | 13,728 | △62,996 |
| たな卸資産の増減額(△は増加) | △2,964 | △6,045 |
| 仕入債務の増減額(△は減少) | 759,142 | 793,875 |
| 未払消費税等の増減額(△は減少) | △48,734 | 4,274 |
| 資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額 | 5,832 | — |
| その他 | △365,268 | △318,748 |
| 小計 | 774,630 | 737,894 |
| 利息及び配当金の受取額 | 1,971 | 5,425 |
| 利息の支払額 | △13,948 | △17,241 |
| 災害損失の支払額 | △34,856 | — |
| 和解金の支払額 | △11,200 | — |
| 法人税等の支払額 | △684,700 | △177,818 |
| 法人税等の還付額 | 52,391 | 13,469 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 84,286 | 561,729 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 定期預金の預入による支出 | △73,100 | △64,471 |
| 定期預金の払戻による収入 | 50,000 | 80,279 |
| 有形固定資産の取得による支出 | △36,331 | △105,403 |
| 無形固定資産の取得による支出 | △12,480 | △19,674 |
| 有形固定資産の除却による支出 | △8,297 | — |
| 有形固定資産の売却による収入 | — | 2,823 |
| 投資有価証券の取得による支出 | △180 | △172 |
| 関係会社株式の取得による支出 | — | △10,087 |
| 連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出 | △39,786 | △195,850 |
| 連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入 | 380,000 | — |
| 関係会社株式の売却による収入 | 6,000 | — |
| 事業譲受による支出 | △10,000 | — |
| 貸付けによる支出 | △25,577 | △5,785 |

(単位：千円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年1月1日 至 平成23年6月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年6月30日) |
|----------------------|---|---|
| 貸付金の回収による収入 | 8,930 | 35,175 |
| 敷金及び保証金の差入による支出 | △56,210 | △231,044 |
| 敷金及び保証金の回収による収入 | 57,992 | 68,784 |
| 保険積立金の積立による支出 | △1,599 | △1,560 |
| 保険積立金の解約による収入 | 13,216 | 1,923 |
| その他 | — | 39 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | 252,577 | △445,023 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 短期借入金の純増減額 (△は減少) | △71,588 | 216,643 |
| 長期借入れによる収入 | 300,000 | 1,000,000 |
| 長期借入金の返済による支出 | △458,218 | △312,215 |
| 社債の償還による支出 | △41,750 | △61,750 |
| 株式の発行による収入 | 2,572 | — |
| 配当金の支払額 | △103,230 | △112,062 |
| 少数株主からの払込みによる収入 | 6,766 | 4,068 |
| 少数株主への配当金の支払額 | △1,534 | △2,111 |
| その他 | △437 | △3,265 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △367,419 | 729,306 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | △931 | 9,884 |
| 現金及び現金同等物の増減額 (△は減少) | △31,487 | 855,897 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 1,713,488 | 2,166,060 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 1,682,001 | 3,021,958 |

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) セグメント情報等

I. 前第2四半期連結累計期間(自平成23年1月1日至平成23年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

| | 報告セグメント | | | その他の 事業 (注)1 | 合計 | 調整額 (注)2 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3 |
|---------------------------|----------------------|------------------------|------------|--------------------|------------|-------------|-------------------------------|
| | 生産 アウトソー シング事業 | 管理業務 アウトソー シング事業 | 計 | | | | |
| 売上高 | | | | | | | |
| (1) 外部顧客への売上高 | 14,385,000 | 419,574 | 14,804,575 | 70,020 | 14,874,595 | — | 14,874,595 |
| (2) セグメント間の内部 売上高又は振替高 | 223,685 | 1,850 | 225,535 | — | 225,535 | △225,535 | — |
| 計 | 14,608,685 | 421,424 | 15,030,110 | 70,020 | 15,100,130 | △225,535 | 14,874,595 |
| セグメント利益 又は損失(△) | 99,566 | 163,366 | 262,932 | △1,992 | 260,939 | △52,805 | 208,134 |

(注) 1 「その他の事業」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、(株)アウトソーシングセントラルにてレースを中心とした自動車用高性能部品等の開発製造販売を行っております。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△52,805千円は、のれんの償却額△80,664千円、セグメント間取引27,858千円であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ. 当第2四半期連結累計期間(自平成24年1月1日至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:千円)

| | 報告セグメント | | | その他の 事業 (注)1 | 合計 | 調整額 (注)2 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3 |
|---------------------------|----------------------|------------------------|------------|--------------------|------------|-------------|-------------------------------|
| | 生産 アウトソー シング事業 | 管理業務 アウトソー シング事業 | 計 | | | | |
| 売上高 | | | | | | | |
| (1) 外部顧客への売上高 | 19,768,313 | 560,742 | 20,329,055 | 79,060 | 20,408,116 | — | 20,408,116 |
| (2) セグメント間の内部 売上高又は振替高 | 285,238 | 1,400 | 286,638 | — | 286,638 | △286,638 | — |
| 計 | 20,053,552 | 562,142 | 20,615,694 | 79,060 | 20,694,755 | △286,638 | 20,408,116 |
| セグメント利益 | 170,086 | 168,274 | 338,360 | 4,800 | 343,161 | △93,257 | 249,903 |

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、㈱アネブルにてレースを中心とした自動車用高性能部品等の開発製造販売を行っております。

なお、㈱アウトソーシングセントラルは、平成24年5月1日付で㈱アネブルに商号変更いたしました。

2 セグメント利益の調整額△93,257千円は、のれんの償却額△118,260千円、セグメント間取引25,002千円であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「生産アウトソーシング事業」セグメントにおいて、事務所移転に伴い、使用が見込まれない固定資産について、減損損失を認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては、39,221千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

「生産アウトソーシング事業」セグメントにおいて、平成24年1月30日付でアスカ・クリエイション株式会社の株式取得を行い、新たに連結子会社としたことにより、153,900千円増加しております。

(重要な負ののれん発生益)

「生産アウトソーシング事業」セグメントにおいて、平成24年3月28日付で連結子会社である株式会社アウトソーシングセントラルの株式を追加取得したことに伴い、15,344千円計上しております。

4. 補足情報

当第2四半期連結累計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

| セグメントの名称 | 当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年6月30日) | | |
|----------------|---|------------|----------------|
| | 金額 (千円) | 構成比 (%) | 前年同四半期比 (%) |
| 生産アウトソーシング事業 | 19,768,313 | 96.9 | 37.4 |
| 食品関係 | 868,826 | 4.3 | △6.6 |
| 電気機器関係 | 3,703,382 | 18.1 | △16.1 |
| 輸送用機器関係 | 6,245,724 | 30.6 | 35.3 |
| 化学・薬品関係 | 2,093,287 | 10.3 | △3.2 |
| 金属関係 | 1,919,399 | 9.4 | 930.0 |
| IT関係 | 1,005,074 | 4.9 | — |
| その他 | 3,932,618 | 19.3 | 89.7 |
| 管理業務アウトソーシング事業 | 560,742 | 2.7 | 33.6 |
| 報告セグメント計 | 20,329,055 | 99.6 | 37.3 |
| その他の事業 | 79,060 | 0.4 | 12.9 |
| 合計 | 20,408,116 | 100.0 | 37.2 |

(注) 1 セグメント間の取引につきましては相殺消去しております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 セグメント区分は、事業の種類・性質の類似性を考慮して行っております。

4 各セグメントの主な事業

(1) 生産アウトソーシング事業・・・当社及び子会社にて、メーカーの製造工程の外注化ニーズに対応するサービス及びメーカーの設計・開発・実験・評価工程への高度な技術・ノウハウを提供するサービスを業務請負または人材派遣にて提供しております。

(2) 管理業務アウトソーシング事業・・・当社、(株)ORJ及び(株)アネブルにて、メーカーが直接雇用する社員の採用代行から労務管理や社宅管理にまで至る管理業務を一括で受託するサービスの提供を行っております。

なお、(株)アウトソーシングセントラルは、平成24年5月1日付で(株)アネブルに商号変更いたしました。

(3) その他の事業・・・(株)アネブルにてレースを中心とした自動車用高性能部品等の開発製造販売を行っております。

地域別売上高は、次のとおりであります。

| 地域 | 当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年6月30日) | | |
|-----------|---|------------|----------------|
| | 金額 (千円) | 構成比 (%) | 前年同四半期比 (%) |
| 北海道・東北・関東 | 6,186,789 | 30.3 | 38.1 |
| 東海 | 7,997,382 | 39.2 | 24.5 |
| 北陸・甲信越 | 523,105 | 2.6 | △5.8 |
| 近畿・中国・九州 | 3,706,428 | 18.1 | 8.5 |
| 海外 | 1,994,409 | 9.8 | — |
| 合計 | 20,408,116 | 100.0 | 37.2 |

(注) 1 セグメント間の取引につきましては相殺消去しております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。